One for Children, All for Children

久我山青光学園

学園便り　３月号
校長　宮田 守
令和７年２月 28 日発行

来るべき春に備えて

都立久我山青光学園　校長　宮田　守

立春が過ぎ、ひと月がたとうとしていますが、早春賦の歌詞の「春は名のみの風の寒さや」がしっくりとくる日が続いています。そんな寒さが続く、２月 20 日に都立の特別支援学校の合格発表がありました。本校の中学部３年生たちは、全員進路が決定したとのことです。１月の終わり頃に、視覚障害教育部門の生徒さんたちも、知的障害教育部門の生徒さんたちも、校長室で面接練習をしたのですが、その時は、教えている校長先生までドキドキしてくるぐらい、皆さんとても緊張していましたね。今は、結果も出て、あの時の緊張感からは解放されているのでしょう。この季節は、新しい生活が始まる、希望に満ちた春の前の準備の季節で、少し心がザワザワしたり落ち着かないこともあると思いますが、確実に春は来ますので、もうひと踏ん張り頑張っていきましょうね。

もう、ひと月もすると中学部の３年生たちは卒業し、在校生の皆さんも、それぞれ進級します。同じように、学校も、これから来る４月に向けての準備期間が始まりました。先日の全校保護者会でもお話ししましたが、次年度も、今年度に引き続き、「デジタルの活用」や「外部人材の活用」といった今日的な課題を、本校の現状に合うように上手く取り込みながら、本校の幼児・児童・生徒の学習に役立てていけるよう、「来るべき春に備えて」学校も工夫してまいります。次年度、令和７年度も引き続きよろしくお願いいたします。

視覚障害教育部門副校長　月崎 泰照

令和６年度を振り返ると、多くの課題解決に直面しながら、時代の移り変わりを目の当たりにした１年だったと思います。コロナ禍で中断した学校としての取組を見直し、これまでに培ってきた視覚障害教育の根本を見直す中で、今後も継続すべきものと新しい知識や技術が必要とされるものを取捨選択し、子供たちにとってより良い教育活動を探っていくいい機会になったのかもしれません。例えば、ICT 活用に関して、音声読み上げソフトや点字ディスプレイなど、視覚障害に関する先進的な技術は従来から活用されていました。これらの利点をさらに活用できるよう、バージョンアップすることと、新たに視覚障害者のために開発されたツールを組み合わせて教育活動に採り入れていく工夫も必要と思われます。

とはいえ、白杖を使った歩行や触察などの基本となる感覚や技術の習得は必要不可欠な能力に他なりません。これからも引き続き取り組んでまいりますので御理解・御協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

経営企画室長　樽谷 聡

今年度も残り１か月となりました。約１年間、経営企画室の運営に御理解・御協力いただき、ありがとうございました。

経営企画室は幼児・児童・生徒の皆さんが安心・安全な学校生活をおくれるよう、学校内の予算・施設・庶務関係、学校徴収金、就学奨励費、給食・寄宿舎食、校舎内外の環境整備等を担当しています。

子供たちと直接かかわることは少ないですが、皆さんが毎日の授業や活動などの学校生活を通して、たくさんの経験を積み重ねて学び、成長できるよう引き続き取り組んでいきたいと思います。

また、これから新年度に向けて、校舎の改修等の工事を実施いたします。保護者の皆様には引き続き御理解・御協力をよろしくお願いします。

知的障害教育部門副校長 堀越 貴美子

令和６年度はデジタル化への取組をいくつか実施しました。Classi 東京都版の活用による遅刻・欠席連絡、お便りの配信、ＳＢ遅延の連絡などを開始するとともに、授業においては一人一台端末の活用を全校で推進してきました。そうした変化の中で、良かった点は継続し、改善が必要な点については柔軟に対応していきたいと考えております。

私が久我山青光学園に赴任して、２年がたとうとしています。子供たちが楽しそうに登校してくるのと毎朝見守っています。「おはようございます」と私が挨拶をすると、ペコッとお辞儀ができるようになった子、バスからスムーズに玄関に入れるようになった子など、たくさんの成長を感じることができました。子供たちの笑顔や成長を支えるため、よりよい変化をしていけるよう次年度も取り組んでまいります。引き続き、保護者の皆様の御理解・御協力をお願いいたします。

１年間ありがとうございました。